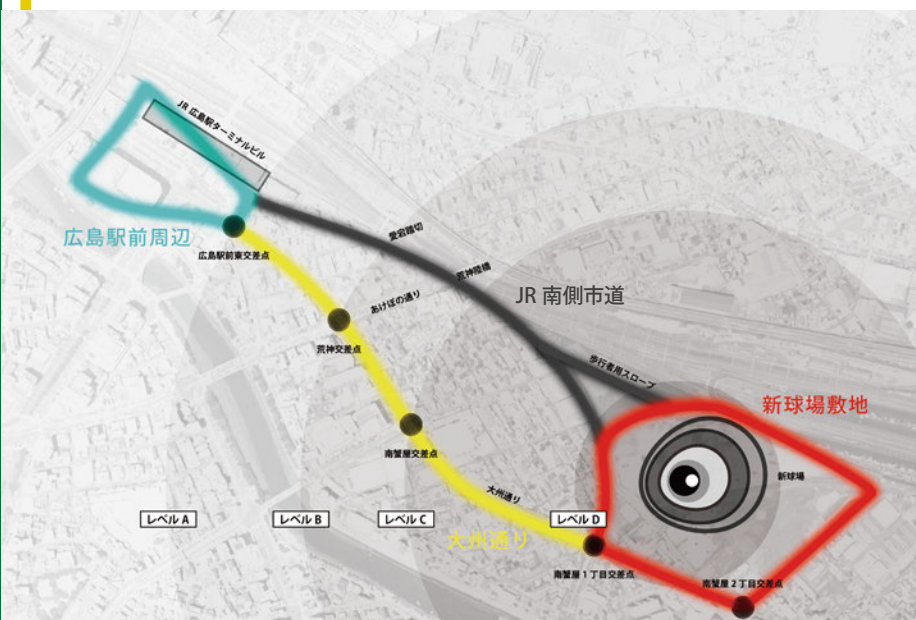


## 「まち」と「みち」をつなぐ

### “裏方”ストーリー

1945年8月6日以来、広島という「まち」の復興のため、さまざまな「みち」がつけられています。2016年11月5日、広島市の平和大通りで、広島東洋カープの優勝パレードが41年ぶりに行われました。集まった人たちは31万人といわれています。広島市の人口は現在約120万人。その約1/4が平和大通りという「みち」に集まったこととなります。

「みち」は、「まち」にとって重要な要素であり、「みち」を通じて、さまざまな「まち」づくりが行われているのです。安全な「みち」をつくるには、「科学」の力が必要です。しかし、「みち」をつくるのに、もうひとつ重要な要素があります。それは「文化」です。今回の特集では、広島市立大学がかかわっている3つの「みち」を紹介します。



マツダ スタジアム  
コイの聖地へ続くみち

マツダ スタジアム周辺歩道デザインコンセプト図

マツダ スタジアムに行ったことがある人やその周辺を歩いたことがある人に質問です。スタジアム周辺の歩道の色には主に何色が使われているのでしょうか？その答えを発表する前に、マツダ スタジアムが「新球場」として完成するまで、その周辺の「みち」がどのようにデザインされたかを紹介します。広島市には、多くの河川があり、瀬戸内海に流れています。こうした自然環境を生かすため、1990年から、国、広島県、広島市により「水の都」づくりに向けた取り組みが推進されてきました。こうした「水の都」に築城された広島城は別名「鯉城」(りじょう)と呼ばれ、カープ(鯉)が球団名に入っていることから、鯉は広島市民にとって親しみ深く、広島歴史を象徴するものです。そこで、球場とともにその周辺を新たに整備する際、マツダ スタジアムを「目玉」として、スタジアム周辺の道路と歩道をその体のラインにそれぞれ見立て、広島市内に巨大な「鯉のぼり」を



マツダ スタジアム周辺の歩道

出現させるという大学のデザインコンセプトを基に設計されました。ここまでお話ししたところで、最初の質問の答えがお分かりでしょうか？そうなんです、スタジアム周辺の歩道は、広島東洋カープのイメージカラーでもある「赤」を基調に彩られています。また、「鯉」の「頭」に位置するスタジアム周辺の歩道は、輪郭

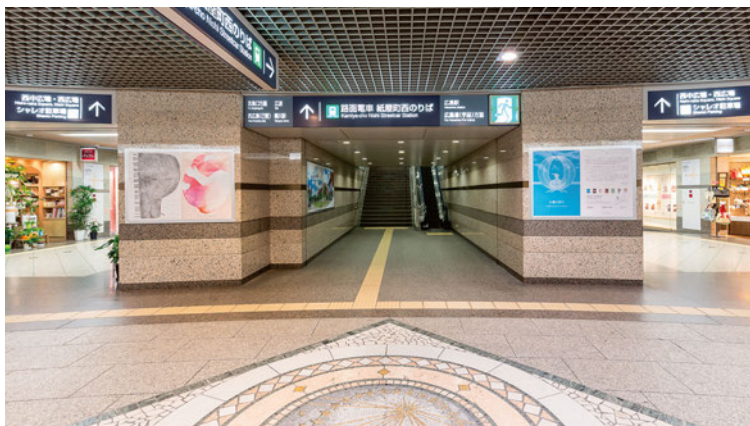


マンホールのデザインイメージ

広島市の中心部である紙屋町の地下街は、「シャレオ」と呼ばれています。全国初の国道下の地下街として2001年に誕生しました。「シャレオ」というネーミングは一般公募で決まり、「オシャレで楽しい生活を提案し、行き交う人々が主役となり、新しい発見がある街」との意味が込められています。デザインは、大学の教員が監修し、国際平和文化都市・広島の誇れる地下空間とするため、落ち着いたある居心地の良い都市ロビーであると同時に、多彩なイベントや演出による賑わいと情報の発信スポットとなる空間を創出しました。壁面や床などのさまざまな部分に、「地下のエネルギー」と「積層」というコンセプトが生かされています。実際にどのように実現されているのかを見



シャレオに設置されているベンチ



紙屋町シャレオで開催した本学学生の広島平和ポスター展

### 紙屋町シャレオ シャレオに潜む 「新しい」エネルギー

シャレオデザインイメージコンセプト図

ながら歩いてみると、いろいろな発見があることでしょう。また、シャレオに設置されているベンチのデザインにも本学がかかわっています。座ることができればよいという機能面だけではなく、文化としてのデザイン要素を構成する「ベンチ」として、どのようなものがふさわしいのか。限られた予算の中で、さまざまな工夫を凝らしながらデザインしています。広島の地下街・シャレオ。その歴史の元となったデザインコンセプトを感じながら歩いてみると、なにかしらの「エネルギー」を感じられるかもしれません。

## 大塚シンボル通りアートマップ

OZUKA SYMBOL STREET ART MAP



広島市立大学「あさなみ芸術化構想」や大塚上町内会「まちづくり推進事業」の一環として、西風新都の玄関口となる「大塚シンボル通り」に、芸術学部・大学院の学生・教員の作品を展示することや、地域住民による沿道の花の緑意などを通して、芸術のあるまちづくりを推進しています。大学と地域住民、広島市が協働して、地域の活性化と若い芸術家育成に努めています。

### 大塚シンボル通り

### 地域も応援！ アート・スポーツ・まちづくり

大塚シンボル通りに設置されているアートマップ

サンフレッチェ広島のホームグラウンドとなっているエディオンスタジアム広島は、本学と同じ広島市の「西風新都」に位置しています。JR 横川駅からスタジアムまでは約20分。シャトルバスに乗り、広島高速4号線を抜けると、そこは西風新都だった…。西風新都の玄関口となる広島市道西風新都中央線は、「大塚シンボル通り」と名付けられ、さまざまな彫刻作品が設置されています。また、地域住民が沿道にある歩道の植え込みスペースに花壇をつくり、紫の花をウェーブに見立てて植えるなど、地域と本学が協働でまちづくりを推進しています。



「Untitled」  
(2002年制作) [2010年度設置]  
加納 士郎 (広島市立大学大学院芸術学専攻科修了)



「穿孔(せんこう)」  
(2003年制作) [2010年度設置]  
前川 義春 (広島市立大学教授)



「WORLD」  
(2002年制作) [2011年度設置]  
和田 礼次郎 (広島市立大学大学院芸術学専攻科修了)



「10mの流動体」  
(1998年制作) [2015年度設置]  
前川 義春 (広島市立大学教授)



「雪鳥(ゆきがらす)」  
(2013年制作) [2016年度設置]  
川西 千尋 (広島市立大学芸術学部卒業)



「くもあひ」  
(2013年制作) [2016年度設置]  
西尾 愛 (広島市立大学大学院芸術学専攻科修了)

### まとめ

最近、さまざまな「まち歩き」の番組がテレビで流行っているようです。「まち」の「みち」には、あなたがまだ知らないストーリーがきっとあるはず。興味を持って調べてみると、広島という「まち」をもっと好きになるかもしれません。



### <表紙写真> 大塚竹林バイオニアプロジェクト

2016年10月に本学近くの竹林(広島市安佐南区大塚寺谷・中等地区)でのライトアップセレモニーの様子。本学芸術学部の学生を中心に、竹を素材として制作した作品を展示した。「荒れた状態で放置されている竹林の整備を行い、人に優しい竹林を蘇らせる環境保全に取り組むとともに、造形作品を制作・展示することで、竹の芸術創作の素材としての可能性を見出していくこと」を目的として開催。通称「竹プロ」。

## 活躍する市大人

在学生、卒業生を問わず、国内外のさまざまな分野で活躍する「市大人」を紹介します。

## 何が「きっかけ」になるか分からない

住岡 梓さん

住岡さんは、2016年度広島学生平和コンペティション(※1)において、グランプリを受賞しました。また、基町プロジェクト(※2)にかかわるなど、さまざまな活動を行って住岡さんに、これまでの経緯や平和ポスターへの想いなどを伺いました。

一所属学部は芸術学部ですが、美術系の高校からの進学ではないそうですね。

高校では、美術部と剣道部を兼部していました。幼いころから絵を描くのが好きで、趣味で絵を描いていました。仕事にしたいとかデザインの役割を知りたいと思い、実技対策を学べる塾に放課後通いました。

一市大人を選んだきっかけを教えてください。

芸術系の大学に進学したいとは考えていたのですが、別の大学の教育学部と進路を迷っていました。オープンキャンパスにも行ったのですが、そこで、指導方法や授業の組み方を学ぶことが中心になると感じました。市大の場合は、卒業(卒業・修了作品展)を見に行きました。デザイン系の作品が特におもしろくて、私自身も作品を制作したかったことが、受験する決め手になりました。あと、市大の卒業生で、NHK「みんなのうた」のアニメーションを制作された方がいて(※3)、社会に出て活躍されているイメージから、枠にとらわれない「未来」についていろいろ見ることができて、自分が自分であったものが世の中に出て、多くの人に受け取れて、みんなが喜んでくれるなどの反応があるのを想像できた意味でも、「みんなのうた」は大きかったです。

一入学後はどうやって学ぶことを決めたのですか？

漠然と「アニメーションを学びたい」とは思っていたのですが、デザイン芸芸学科では、1年生の時は基礎実技を学んで、2年生から専門分野に分かれます。そこで、クラブ活動として、映像系を学べる映研(自主制作映画研究会)に入りました。映画をつくるには、いろんな人がかかわりながらチームを組んでいく必要があります。それがおもしろかったんです。入学後、周りに絵を描くのが自分より断然うまい人がたくさんいて、ちょっとショックだったんですけど、チームでやる場合は、ディレクターとしておもしろい人や技術を持った人を集めることができます。それから、大学院の時に、チラシをデザインすることになりましたが、そのチラシが結構評判が良かったんです。さらに、映研の先輩が視覚造形分野でグラフィックデザインを学んでいて、その視覚造形の先生が、アートディレクターにも興味がある学生を募集するというのを聞きグラフィックデザインを学ぶことにしました。

一その視覚造形研究室が「基町プロジェクト」とかかわっていたんですね。

はい、ちょうど基町プロジェクトが立ち上がった時で、学生参加者としてかわり始めました。初めは基町高層アパートに行ったときは、そのつくりかにもこんな場所があったんだと驚いたことを覚えています。3年生からは、「ももまちカフェ」というプロジェクトに携わりました。

一「ももまちカフェ」ではどのようなことをしたのですか？

基町ショッピングセンターの中央広場で、カフェを開催しました。若い人たちがも立ち寄り寄ってらるおうと、広島市立大学の学生と広島修道大学の学生が共同で企画しました。1回目は、ももまちカフェでは、アパートの中心にある芝生の広場に大きな屋根状の作品を設置して、訪れた人と住んでいる人が視線を交わすような仕掛けを作りました。実際にアパートに住んでいるお年寄りの方が、「普段はあまり外に出ないがベランダから見えたので足を運んでみ



1回目「ももまちカフェ」

住岡 梓さん

た)とおしゃっていたのがとてもうれしかったです。2日で約500名の方が来場され、盛況でした。2回目のももまちカフェでは、カフェを出すお菓子の開発のために聞き込みを行っているとき、かつ「ももまち饅頭」という名物があったという話を伺いました。地域の方の協力で、引退された職人さんに実際にお会いすることができました。職人さんは戦後、物のない時代だったので、人が集まり心が和むようなものが必要だと考えて、地域の人と一緒にまんじゅうを作ったそうです。そして50年間、時代に合わせお客さんを喜ばせる工夫を常にされていたことを聞いてとても感動しました。「私たちができる、今の基町にお菓子は何だろう?」と考えて、若い人も、お年寄りも食べやすい柔らかい「基町の形」のサブレを、お菓子作りが詳しいメンバーが中心となって作りました。空間にもこだわり、中央に大きなテーブルを設置して、来た人が囲めるように工夫しました。4時間限定の開催でしたが、約200名の方が来場されました。職人さんともて喜んでくださいました。学生たちが主体となって地域に地道にかかわりながら、地域の方との絆を少しずつつづけていくことで、プロジェクトが成功していたことを実感しました。

一学生平和ポスターコンペティションでは、昨年は佐藤卓賞を受賞し、今年はグランプリを受賞と、徐々にステップアップした感じですか。

大学2年生の時に、授業の一環としてこのコンペに出品することになったのですが、その時が初めての応募でした。自分なりにストーリーや想いを込めて制作したのですが、いろいろ考えすぎて、「分かりにくい」作品となってしまうました。その次の年の交流は留学が終わり後も続きます。留学は自分の世界を広げることにつながるのです。

一入学後はどうやって学ぶことを決めたのですか？

漠然と「アニメーションを学びたい」とは思っていたのですが、デザイン芸芸学科では、1年生の時は基礎実技を学んで、2年生から専門分野に分かれます。そこで、クラブ活動として、映像系を学べる映研(自主制作映画研究会)に入りました。映画をつくるには、いろんな人がかかわりながらチームを組んでいく必要があります。それがおもしろかったんです。入学後、周りに絵を描くのが自分より断然うまい人がたくさんいて、ちょっとショックだったんですけど、チームでやる場合は、ディレクターとしておもしろい人や技術を持った人を集めることができます。それから、大学院の時に、チラシをデザインすることになりましたが、そのチラシが結構評判が良かったんです。さらに、映研の先輩が視覚造形分野でグラフィックデザインを学んでいて、その視覚造形の先生が、アートディレクターにも興味がある学生を募集するというのを聞きグラフィックデザインを学ぶことにしました。

一「ももまちカフェ」ではどのようなことをしたのですか？

基町ショッピングセンターの中央広場で、カフェを開催しました。若い人たちがも立ち寄り寄ってらるおうと、広島市立大学の学生と広島修道大学の学生が共同で企画しました。1回目は、ももまちカフェでは、アパートの中心にある芝生の広場に大きな屋根状の作品を設置して、訪れた人と住んでいる人が視線を交わすような仕掛けを作りました。実際にアパートに住んでいるお年寄りの方が、「普段はあまり外に出ないがベランダから見えたので足を運んでみ

た)とおしゃっていたのがとてもうれしかったです。2日で約500名の方が来場され、盛況でした。2回目のももまちカフェでは、カフェを出すお菓子の開発のために聞き込みを行っているとき、かつ「ももまち饅頭」という名物があったという話を伺いました。地域の方の協力で、引退された職人さんに実際にお会いすることができました。職人さんは戦後、物のない時代だったので、人が集まり心が和むようなものが必要だと考えて、地域の人と一緒にまんじゅうを作ったそうです。そして50年間、時代に合わせお客さんを喜ばせる工夫を常にされていたことを聞いてとても感動しました。「私たちができる、今の基町にお菓子は何だろう?」と考えて、若い人も、お年寄りも食べやすい柔らかい「基町の形」のサブレを、お菓子作りが詳しいメンバーが中心となって作りました。空間にもこだわり、中央に大きなテーブルを設置して、来た人が囲めるように工夫しました。4時間限定の開催でしたが、約200名の方が来場されました。職人さんともて喜んでくださいました。学生たちが主体となって地域に地道にかかわりながら、地域の方との絆を少しずつつづけていくことで、プロジェクトが成功していたことを実感しました。

一今後目標を教えてください。

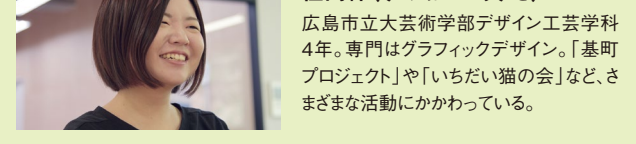
大学院に進学して、制作を続けたいと思います。進学後はドイツに留学する予定なので、地域でデザインのあり方について学んできたと思います。

(取材協力)学生広報サポーター-国際学部国際学科2年 繁本 美歩)

(※1)公益社団法人日本グラフィックデザイナー協会広島地区主催の学生ポスターコンテスト。

(※2)本学が広島市中区役所が、アートやデザインを活用して基町住宅地区の活性化に取り組むプロジェクト。2014年度に開設した「M98」を拠点としてさまざまな活動を行っている。

(※3)広島市立大学芸術学部デザイン芸芸学科卒業生の井上雪子さん。



住岡梓(すみおか・あすさ)

広島市立大学芸術学部デザイン芸芸学科4年。専門はグラフィックデザイン。「基町プロジェクト」や「いちだいちの会」など、さまざまな活動にかかわっている。

## 留学体験記

本学では海外のさまざまな大学と学術交流協定を結び、学術交流や学生の交換留学を推進しています。

### フランス・オルレアン大学(オルレアン市) 留学が自分の世界を広げた

国際学部国際学科3年 芝田 直佑

オルレアン大学はフランス中部にあるオルレアン市の郊外にあり、トラム(市電)で中心街から30分ほどの位置にあります。大学の敷地は広く、私たち留学生は文学部系の学生と同じ校舎で学びます。日本語学科もあり、日本文化に興味を持った学生も多く、また韓国や中国のテレビ、リアリティ番組などさまざまな国からの留学生がいました。

オルレアンはパリから電車で1時間程度の場所に位置し、気楽にパリまで遊びに行けます。学生証を提示すれば無料で美術館、お城、教会などに入れ、便利でした。また、ホームステイ先が素晴らしいので、何百年前に建てられたアンティークの住居を補給し、現代風に改修された家は快適で、私は3階の屋根裏部屋を使用させてもらいました。7カ月間はあという間に過ぎました。素晴らしいホストファミリーに恵まれ、ヨーロッパの古い歴史に触れ、大変有意義な期間を過ごしました。

留学に行くとは海外と日本の違いが顕著になります。文化や人種、言葉などさまざまな文化が異なる環境で生活することは異文化理解を深めるだけでなく、貴重な経験を得ることになると思います。また、そこで出会った人々との交流は留学が終わった後も続きます。留学は自分の世界を広げることにつながるのです。

### 中国・西南大学(重慶市) 五感で感じた生の中国

国際学部国際学科4年 額田 晟太

一年間、他国の留学生と中国語の授業を受け、後期には中国人学生と専門の授業を受けました。大学では、他国の留学生や国際学院(学部)に相当)の先生たちと多くの時間を過ごし、語学力の向上だけでなく、文化や価値観を共有しました。毎年4月と11月に文化祭が開催され、留学生たちは中国語の中国劇など多種多様な出し物をします。私も他の日本人留学生とともに日本料理を出しました。

また、授業のない時期を中心に、他の都市などに積極的に旅行しました。成都パンダ研究基地でのパンダ見物や陝西省西安市での兵馬俑見学、甘肅省蘭州市で名物の蘭州ラメーの実食などでは飽き足らず、チベット自治区の九寨溝(きゅうさいこう)、敦煌、厦門(アモイ)、上海などにも足を延ばしました。

この一年間の最も大きな収穫は、生の中国を自分の五感を使って体験できたことです。日本でメディアなどの媒体を通して間接的に中国に接すると、私たちは中国にネガティブな印象を抱きがちですが、実際に行ってみると必ずしもそうではありません。私は現地の中国人たちと交流し、むしろ中国に好印象を受けました。

これからは、この経験を日本で積極的に広げることで、中国へ行ってみたいと思う人を少しでも増やしたいと考えています。この体験記も誰かを中国に送り出すきっかけになればと思います。

文化祭でロシア人留学生たちと(左から3番目が額田さん)

## 学生レポート

この記事は、「学生広報サポーター」に登録している市大生自ら取材をして記事を作成しています。

## 学生が「落語」で地域を活性化!

情報学部医情報科学科4年 木村 優也

落語研究会「落花生」の部員3名が11月12日、「いとうさん家」で落語会を行いました。

「いとうさん家」とは特別養護老人ホームなどを運営する社会福祉法人「慈光会」が管理し、地域の人同士に加えて、学生や子供たちなど若い世代も交流する場となるための地域交流ハウスとして利用されている空き家です。

23人もの地域の高齢者が落語を聞きに来られました。6畳2間にキッチンを加えた会場は、落語を聞きに来た人いっぱいとなり、落語が披露されている間、多くの笑いに包まれていました。この日は地域で公民館祭りもあったそうですが、学生の落語会に参加した方は「落語が好きだからこちらに来た。一生懸命しているのを見て元気がもった」と話しました。地域の高齢者にとって、身近で大学生の落語を聞く機会はなかなかないことです。参加者の中にはうれしさのあまり涙ぐむ方もいて、地域の方に喜ばれていることをひしひしと感じました。

現在日本では高齢化が進み、老人ホームに入りたくても入れない高齢者が少なくありません。そういった高齢者の中には自宅にこもり外出を控える方も多くいます。大学生が地域で落語会を開催したことは、高齢者が誘い合わせて外出し交流するきっかけとなり、非常に意義のあるものです。落花生の中須賀愛美さん(芸術学部3年)は、「私は祖母と暮らしていて、祖母は足が悪いから外にあまり出ないが、大学祭などに呼んで外に出てもらうようにしている」と話しました。

落語会をきっかけに地域での交流が増え、地域がより活性化されるかもしれません。落花生は今後も多くの人を楽しませてくれるでしょう。

なお、落花生ではツイッターアカウント(@itidaiotiken)で情報発信を行っています。

【<乗車日>8月20日:瀬川) みなみ(国際学部2年)】

【<乗車日>8月9日:繁本 美歩(国際学部2年)】

【<乗車日>8月12日:山室 敦也(国際学部3年)】

【<乗車日>8月7日:佐久間 優衣(国際学部3年)】

【<乗車日>8月7日:佐久間 優衣(国際学部3年)】

## 学生広報サポーターが取材した「被爆電車特別運行プロジェクト」

2016年8月、本学で学ぶ学生たちが、「学生記者」として、「被爆電車特別運行プロジェクト」取材しました。「被爆電車特別運行プロジェクト」は、中国放送(RCC)と広島電鉄の共同プロジェクトで、「71年前の被爆の惨禍」と「広島への街が、いかに復興を成し遂げたか」について、71年前に走った被爆電車に乗ってあらためて知ってもらおうというものです。一般参加者と共に被爆電車に乗り取材を行った本学の学生記者たちに、それぞれの視点でレポートしてもらいました。

被爆電車に乗り、最も印象に残ったのは、「かつて広島が軍都として栄えていた」という歴史が伝えられていたことです。今年5月、オバマ米大統領が、広島で行ったスピーチ、そしてそれを引用した今年の松井広島市長の平和宣言。その中では、「朝鮮半島、中国、それから東南アジアの人々に対する加害的な行為について、言及されています。また、広島出身の作家、栗原貞子氏の「ヒロシマというとき」という一(ヒロシマ)というとき (ああ ヒロシマ)と やさしくこたえてくれるだろうか」という一節があります。私は、広島が平和を語る都市であるならば、加害の過去にも目を向けなくてはならないとも思ってきました。「電車に乗る」というごく日常的な行為を通して、71年前にも変わらぬことになった人々の時間に思いを馳せ、木の窓枠から見える景色に71年前に彼らが見ていたものを想像することができました。70年間は草木も生えぬ、と言われた焼け野原。「電車が走る」という日常が取り戻されたことが、どれほど人々を勇気づけたか、また、終戦の境に軍都「広島」から平和都市「ヒロシマ」へ変わったことについて、深く考えさせられました。

【<乗車日>8月12日:山室 敦也(国際学部3年)】

車窓の外では、電停で電車を待つ人々が不思議そうにこちらを眺めています。私たちが乗っている現在の濃い緑とクリーム色の車体とは異なり、紺とグレーの2色で統一された、少し夏の空には似合わない暗めの色合いの被爆電車653号です。被爆によって傷ついた人々を乗せ、希望をもたらした被爆電車は、70年の時を経て昨年復元に際して、カラーの資料がなく、確実な色は分からないものの、白黒写真や資料、当時を知る人たちの証言をもとに再現されました。当時は戦地に向かった男性に代わり、女子学生が車掌を務めていました。女子学生たちは男性と同じ仕事で女性にも出来るかと誇りに思ったそうです。とはいえ、大人たちに守られるべき子どもたちですら、勉強ではなく、大人と同じような仕事をしなければならなかった状況は、すごいことではあるもの、複雑な思いに駆られました。電車は全123両中108両が被災した中、原爆投下3日後の8月9日には已斐と西天満町の間で運行が再開されました。被爆直後は原爆により壊滅的な状態となつた広島街ですが、今では見事な復興を果し、車窓から見る景色は多くの人々でにぎわっています。早くに復旧を果たした被爆電車は被爆で傷つながら、街の復興に尽力した人々に勇気をもたらしました。そんな被爆電車を通して、当時の人々に思いを馳せることで幸せな日常を奪った原爆の恐ろしさ、車窓から見える平和な景色の有難さをあらためて実感しました。

今回の企画には、知ろうとする人たちだけでなく、平和を伝えるためにも多くの人がかかわっています。平和を伝え、知ろうとする人々がこれからも増えていくことが、平和の一步につながると思います。【<乗車日>8月20日:瀬川) みなみ(国際学部2年)】

【<乗車日>8月20日:瀬川) みなみ(国際学部2年)】

【<乗車日>8月20日:瀬川) みなみ(国際学部2年)】

【<乗車日>8月20日:瀬川) みなみ(国際学部2年)】

【<乗車日>8月20日:瀬川) みなみ(国際学部2年)】

【<乗車日>8月20日:瀬川) みなみ(国際学部2年)】

【<乗車日>8月20日:瀬川) みなみ(国際学部2年)】

【<乗車日>8月20日:瀬川) みなみ(国際学部2年)】

## おめでとうございます!

■芸術学研究所の修了生がヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展の日本館出品作家に決定

2016年6月、芸術学研究所(博士後期課程)総合造形芸術専攻修了生の岩崎貴宏さんが、「第57回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展(2017)」で、「国際交流基金(ジャパンファンデーション)」が主催する日本館展示の出品作家に決定。

■情報科学部の学生が「セキュリティ・キャンプ全国大会」に選抜

2016年6月、情報科学部情報工学科4年の手塚瑞基さんと平空也さんが、「セキュリティ・キャンプ全国大会2016」(2016年8月開催)の参加者に選抜。

■芸術学研究所の学生が「公益財団法人佐藤国際文化育財団第26期奨学生」に選出

2016年6月、芸術学研究所(博士後期課程)総合造形芸術専攻2年の浅木貴貴さんと同(博士前期課程)造形芸術専攻2年の青原恒介(かづと)さんが選出。

■芸術学研究所の修了生らが「第4回新開展(第68回広島県美術展)」で受賞

2016年6月、芸術学研究所(博士前期課程)造形芸術専攻修了生(現芸術学部デザイン工芸学部)の高瀬安芸さんが、「優秀賞」を受賞。また、芸術学研究所(博士前期課程)造形芸術専攻1年の梅田綾香さんが入選。

■情報科学研究所の学生が「平成27年度電子情報通信学会ソフトウェアサイエンス研究会」で受賞

2016年7月、情報科学研究所(博士前期課程)システム工学専攻2年の中村貴史さんが、「研究奨励賞」を受賞。

■情報科学研究所の教員が「Honorable Mention Award」を受賞

2016年7月、「5th International Congress on Advanced Applied Informatics (IIAI AAII 2016)」において、情報科学研究所の原准教授らが、発表講演した論文で受賞。

■芸術学部の山浦助教らが「第9回信備大賞展」で受賞

2016年7月、芸術学部の山浦めぐみ助教が、「佳作賞三席」を受賞。また、本学卒業生の廣藤良樹さんが、「奨励賞」を受賞。

■情報科学部の学生らが「優秀ポスター賞」を受賞

2016年6月、情報科学部システム工学科4年の早川達也さんとDo Nhat Phamさんが、「平成28年度電気学会「電子・情報・システム部門大会」学生ポスターセッション」で受賞。

■芸術学研究所の学生が「第2回石本正日本画大賞展」で受賞

2016年8月、芸術学研究所(博士前期課程)造形芸術専攻2年の原田さおりさんが、「奨励賞」を受賞。

■芸術学部の前田准教授が「再興第101回院展」で受賞

2016年8月、芸術学部前田准教授が、「日本美術院賞(大賞)」を受賞。

■情報科学研究所の学生が「SICE Annual Conference 2016」で受賞

2016年9月、情報科学研究所(博士前期課程)システム工学専攻1年の吉村大二郎さんが、「Finalist in the SICE Annual Conference Young Author's Award」を受賞。

■情報科学研究所の学生が「第15回情報科学技術フォーラム」で受賞

2016年9月、情報科学研究所(博士前期課程)知能工学専攻1年の大瀬和也さんが、「PI奨励賞」を受賞。

■情報科学研究所の学生が「未来博士3分間コンペティション」で受賞

2016年9月、情報科学研究所(博士後期課程)システム工学専攻2年の飯島聡志さんが、「最優秀賞」を受賞。

■情報科学研究所の学生らが「電子情報通信学会サイエティ大会」で受賞

2016年9月、情報科学研究所(博士前期課程)情報工学専攻2年の小林啓太さんと同1年の谷隆雄さんが、「ネットワークソフトウェア優秀ポスター賞」を受賞。

■芸術学部の学生が「ALBION AWARDS 2016」で受賞

2016年10月、芸術学部デザイン工芸学科(染織造形)4年の岡上季さんが、「金賞」を受賞。

■芸術学研究所の学生らが「第3回金沢・世界工芸リエンナーレ」で入選

2016年10月、芸術学研究所(博士前期課程)造形芸術専攻2年の佐藤友里さんと同1年の空閑真希さんが入選。

■情報科学研究所の学生が総務省事業「変な人」(通称)に採択

2016年10月、情報科学研究所(博士後期課程)情報科学専攻1年の西本匡志さんによる研究「ペーパーグラミングの実現に向けた「レン」の手廻機能」の開発が、総務省「異能(Inno)vation」(いのべーしょん)プログラムに採択。

■情報科学研究所の学生が「センサ・マイクログマシンと応用システム」シンポジウム」で受賞

2016年10月、情報科学研究所(博士前期課程)創造科学専攻2年の河岡秀宜さんが、「奨励賞」を受賞。

■芸術学研究所の修了生が「第62回全開西美術展」で受賞

2016年10月、芸術学研究所(博士前期課程)造形芸術専攻修了生の酒井沙織さんが、「読売新聞社賞」を受賞。

■芸術学研究所の学生が「TOKYO DESIGN WEEK 100人展」に出展

2016年11月、芸術学研究所(博士後期課程)総合造形芸術専攻3年の宮地英和さんが出展。

■「全国大学ピリオパトリ」地区決戦で芸術学部の学生が優勝

2016年11月、田中優菜さん(芸術学部1年)が、「全国大学ピリオパトリ2016-京都決戦」の地区決戦で優勝し、地区代表に選出されました。

※学年は受賞当時

## 市大ニュース

■学生表彰の授賞式を行いました

2016年6月、2015年度の学生顕彰を受賞した岡田淳司さんと花房貴さん(ともに情報科学研究所博士前期課程2年)の授賞式を行いました。岡田さんと花房さんは、立命館大学主催の全国高校・大学ソフトウェア創作コンテスト「あいちゅれ2015」において、協賛企業であるVSN賞およびニッセイコム賞を受賞した功績が認められました。

■本学の学生がピースナイターに協力

2016年8月、本学学生の青木翔吾さんと西田愛さん(ともに国際学部2年)がマツダ スタジアムで開催された「ピースナイター2016」(8月6日開催)に、学生ボランティアとして参加しました。試合前に行われた「どうろう流し委託式」にて、広島東洋カープと読売ジャイアンツ両チームの監督・コーチ・選手が平和へのメッセージを記したどうろうを、各チームの代表者から青木さんと西田さんが預かりました。

■売店がリニューアルしました

2016年10月、本学の売店がリニューアルオープンし、「いちだいちば(愛称「いちいち」)」と命名されました。

■外部資金の獲得

本学の教員は、国の制度である科学研究費補助金や民間の各種財団からの助成金を受けて積極的に学術研究活動を展開しています。これらの外部資金を活用し、独創的・先駆的な研究に取り組んでいます。

●2016年度科学研究費補助金採択状況<研究科目別>

研究種目名	件数	計
基礎研究(B)-一般	7	38,740千円
基礎研究(B)海外学術調査	1	2,990千円
基礎研究(C)-一般	37	51,090千円
若手研究(A)	2	24,180千円
若手研究(B)	6	7,410千円
挑戦的萌芽研究	7	7,150千円
新学術領域研究	1	8,190千円
特別研究員奨励費	1	700千円
合計	62	140,450千円

●2015年度受託研究費・共同研究費・助成金・補助金・奨学金寄附金(2016年3月31日現在)

区分	件数	金額
受託研究-共同研究費	37	63,457千円
助成金-補助金	3	65,420千円
奨学金寄附金	14	13,279千円
合計	54	142,156千円

●2015年度受託研究費・共同研究費・助成金・補助金・奨学金寄附金(2016年3月31日現在)

区分	件数	金額
受託研究-共同研究費	37	63,457千円
助成金-補助金	3	65,420千円
奨学金寄附金	14	13,279千円
合計	54	142,156千円

●2015年度受託研究費・共同研究費・助成金・補助金・奨学金寄附金(2016年3月31日現在)

## この本 ～教員の著書紹介～

広島平和研究所  
「なぜ核はなくなるのか」  
2016年8月、広島市立大学広島平和研究所 / 監修、法律文化社

●2016年10月、芸術学部デザイン工芸学科(染織造形)4年の岡上季さんが、「金賞」を受賞。

■情報科学研究所の学生が「第3回金沢・世界工芸リエンナーレ」で入選

2016年10月、芸術学研究所(博士前期課程)造形芸術専攻2年の佐藤友里さんと同1年の空閑真希さんが入選。

■情報科学研究所の学生が総務省事業「変な人」(通称)に採択

2016年10月、情報科学研究所(博士後期課程)情報科学専攻1年の西本匡志さんによる研究「ペーパーグラミングの実現に向けた「レン」の手廻機能」の開発が、総務省「異能(Inno)vation」(いのべーしょん)プログラムに採択。

■情報科学研究所の学生が「センサ・マイクログマシンと応用システム」シンポジウム」で受賞

2016年10月、情報科学研究所(博士前期課程)創造科学専攻2年の河岡秀宜さんが、「奨励賞」を受賞。

■芸術学研究所の修了生が「第62回全開西美術展」で受賞

2016年10月、芸術学研究所(博士前期課程)造形芸術専攻修了生の酒井沙織さんが、「読売新聞社賞」を受賞。

■芸術学研究所の学生が「TOKYO DESIGN WEEK 100人展」に出展

2016年11月、芸術学研究所(博士後期課程)総合造形芸術専攻3年の宮地英和さんが出展。

■「全国大学ピリオパトリ」地区決戦で芸術学部の学生が優勝

2016年11月、田中優菜さん(芸術学部1年)が、「全国大学ピリオパトリ2016-京都決戦」の地区決戦で優勝し、地区代表に選出されました。

●2015年度受託研究費・共同研究費・助成金・補助金・奨学金寄附金(2016年3月31日現在)

●2015年度受託研究費・共同研究費・助成金・補助金・奨学金寄附金(2016年3月31日現在)

●2015年度受託研究費・共同研究費・助成金・補助金・奨学金寄附金(2016年3月31日現在)

●2015年度受託研究費・共同研究費・助成金・補助金・奨学金寄附金(2016年3月31日現在)

●2015年度受託研究費・共同研究費・助成金・補助金・奨学金寄附金(2016年3月31日現在)